

# voice

「京都大学職員ってどんな感じの人?!」  
15人の職員に、日ごろ感じていることを語ってもらいました。



## 田原 香織

企画調査・評価部  
企画課  
大学評価グループ  
平成18年度採用

### ●現在の仕事について

現在の大学は、法人化等で独自性を出せるようになった反面、教育や研究を担う場としての責任を今まで以上に自立的に果たすことが必要となりました。そのための方法として、「評価」という手法が重要視されることとなりました。私が携わっているのは、そのような「評価」という大学の中では新しい部類に入る仕事です。

### ●京都大学の魅力

職場としての京都大学について、様々な種類の業務があることが魅力であると思います。例えば私が携わる「評価」という仕事は、学生と触れ合うことがほとんどなく「大学で働く」という当初のイメージからは遠い仕事ですが、大学全体を見渡しつつ大学を支えることに寄与することができ、とてもやりがいのある仕事です。色々な部署を体験する中で、意欲があれば様々なことを「かたち」にすることができると思います。

### ●京都大学を志望する方へのメッセージ

努力し、自己研鑽し、自分の仕事にプライドをもって日々働き、理想の大学像を思い描きながら、共に必要とされる大学職員になりましょう！

*Kaori Tahara*



## 荒見 友貴

財務部  
財務企画課  
予算グループ  
平成18年度採用

### ●現在の仕事について

私の所属する部署では、京都大学の予算に関わる業務全般を行っています。主要な業務としては、概算要求に関する様々な手続きの取りまとめ、学内組織への予算配分があげられます。現在、日常業務として効率的な予算配分方法の検討・企画、学部や研究所などへ実際に予算を配分する作業などに携わっています。巨額の予算を扱う仕事ですので、毎日身の引き締まる思いで業務に携わっています。

### ●今までの仕事で一番印象に残っていること

京都大学は年間予算が約1200億円という非常に予算規模の大きな組織ですが、この予算の半分は文部科学省から配分される運営費交付金により占められています。この運営費交付金を文部科学省に要求する概算要求書の提出が印象的です。京都大学が全体としてどのような活動を行っているのか、また行おうとしているのかについて広い視野で見据えることができました。また、自分の対応によって京都大学の予算額が変わりうることを、実感を持って体験したことで、より一層自分を引き締めて仕事に取り組むようになりました。

*Tomoki Arami*



## 筑木 一郎

附属図書館  
総務課  
学術情報掛  
平成14年度採用

### ●現在の仕事について

京都大学には、50以上の図書館・室がありますが、それらを繋いで全学的な学術情報基盤として学生や研究者に資料や情報を提供するために、図書館機構というネットワークを組んでいます。現在は、主にその図書館機構の意思決定を行う教員との会議の事務局を務めたり、ホームページやパンフレット、イベント、見学対応等を通して広報活動を行ったりしています。

### ●今までの仕事で一番印象に残っていること

学内の研究成果（論文や報告書）をインターネットを通じて公開する京都大学学術情報リポジトリという新しい取り組みを始めました。これまでの図書館のイメージとは一味違う仕事ですが、アイデアや戦略を練ったり、教員と話し合ったりと、次々とチャレンジしていくことができる面白い仕事です。一步一步着実にアイデアを形にしていくところに仕事の面白さがあると思うようになりました。

### ●京都大学を志望する方へのメッセージ

京都大学という巨大な組織を動かしてやろうというチャレンジングな姿勢を持って挑戦してください。

*Ichiro Tsuzuki*